

石西礁湖サンゴ礁基金について

石西礁湖サンゴ礁基金運営委員会

第13回協議会以降の経過と平成23年度当初の基金運営について、以下の通りご報告します。また、プロモーション活動も行っておりますので、あわせてご報告します。

1 寄付

平成22年度の寄付金額合計（平成22年末現在）

現金・振替	15件	363,420円	
オンライン	9件	150,110円	
計	24件	513,530円	（累計 163件 1,322,859円）

GiveOne サイトでの継続寄付、事業者からの売上の一部等の寄付のほか、企業のCSR（社会的貢献）としての社員募金の寄付先となる等により、一定額の寄付が見込めるようになったが、事業拡大のため、積極的な寄付集めをすることが必要だと考えています。

宮本委員を中心に、一昨年に引き続き昨年末に経済同友会主催のNPO見本市に出展し、CSR活動を行う企業にPRを行い、その後企業訪問を行っています。

前回協議会で承認された事項に関しては以下の通り実施しました。

- (1) オンライン寄付サイト GiveOne に、「サンゴ礁再生に向けた赤土流出防止プロジェクト」を追加登録しました。
- (2) 日本興亜損害保険株式会社の「おもいやりプログラム」に「ファンドレイジングプロジェクト」で応募しましたが、残念ながら不採択となりました。

2 助成事業

八重山ダイビング協会のオニヒトデ駆除の取り組みは8月4日に行われ完了しました。

前回協議会で助成を承認された陸域対策グループ干川明さんの「サトウキビ株出し栽培への農法転換推進」は、実施中で、既に数か所で株出し作業が行われています。

前回協議会で助成の方針が承認された、実行委員会による「コーラルウォッチプロジェクト」について、昨年8月17日付で73,000円の助成を決定し、現在実施中です。

3 平成 22 年度予算執行状況、

平成 22 年 12 月末現在で、以下のとおりです。

このうち、前回協議会以後の支出（運営費 21,364 円）について承認をお願いします。

平成22年度予算執行状況(22年末現在)

(収入)

(単位:円)

科 目	予算額	収入済	摘 要
前年度繰越	753,673	753,673	
寄付金	1,200,000	513,530	
現金、口座振り込み	900,000	363,420	
オンライン	300,000	150,110	GiveOne サイト経由
雑収入	1,000	26	
計	1,954,673	1,267,229	

(支出)

(単位:円)

科 目	予算額	支出済	摘 要
助成費	1,400,000	803,000	
運営費	170,000	33,778	前回協議会以降支出 21,364
備消耗品費	60,000	4,483	" 2,934
通信費	30,000	4,340	" 2,030
手数料等	60,000	24,835	" 16,400
雑費	20,000	120	" 0
広報費	130,000	0	
印刷費	100,000	0	
雑費	30,000	0	
予備費	254,673	0	
計	1,954,673	836,778	

現在高 (収入済額－支出済額) 430,451

4 平成 23 年度当初の基金運営

別紙の暫定予算案の承認をお願いします。基金運営委員会は、この予算に基づき、助成費、運営費、広報費を支出決定し、次回協議会が開催され次第、承認を求めるとともに、平成 23 年度予算案を提案します。

【説明】

- ① 新年度の最初の協議会の開催は、近年の例では6月頃となると思われるが、この間も基金の活動を続けるため、予算の裏付けが必要である。
- ② 寄付の募集は継続して行う必要があり、寄付者に対する領収書・お礼状の送付といった事務も中断することはできない。
- ③ 助成事業では、産卵期前のオニヒトデ駆除等この時期に行うべきものがある。

平成 23 年度暫定予算(案)

(第 15 回石西礁湖自然再生協議会まで)

(収入)

(単位:円)

科 目	金 額	摘 要
前年度繰越	600,000	
寄付金	399,000	
	現金、口座振り込み	249,000
	オンライン	150,000
雑収入	1,000	
収入計	1,000,000	

(支出)

(単位:円)

科 目	金 額	摘 要
助成費	600,000	
運営費	75,000	
	備消耗品費	25,000 送付用封筒、事務用品
	通信費	20,000 礼状、領収書送付、ダイレクトメール送付
	手数料等	25,000 GiveOne手数料等
	雑費	5,000
広報費	105,000	
	印刷費	100,000 リーフレット等印刷
	雑費	5,000
予備費	220,000	
支出計	1,000,000	

5 石西礁湖サンゴ礁基金プロモーション活動報告

2011年1月25日 運営委員 宮本善和

(1) 経済同友会NPO見本市への参加

一昨年に引き続き年末に経済同友会主催のNPO見本市に出展し、CSR活動を行う企業にPRを行った。その結果、以下の企業と会話することができた。

- | | |
|------------|------------|
| ① 大丸松坂屋百貨店 | ⑥ セブン&アイ出版 |
| ② 丸紅 | ⑦ NEC |
| ③ ANA | ⑧ 横浜ゴム |
| ④ TSUTAYA | ⑨ その他 |
| ⑤ 日本経済新聞社 | |

(2) 企業訪問

経済同友会NPO見本市で会話することができた企業に訪問して当基金の活動をPRしている（1/7ANA訪問、1/26NEC）。

ANAでは、「チーム美らサンゴ」の恩納村でのサンゴ礁保全の取組状況を聞くとともに、石西礁湖の現状と当基金の取組を紹介した。この中で、ANA総研が釧路で生鮮品を東京の商店街に空輸して産直を試行していることもあり、石垣市の“美ら海農産物”によるサンゴ礁保全・赤土対策に対して関心が得られた。今後も情報交換を継続することを先方から依頼された。

その他、食品流通大手の日本アクセス㈱の常務に“美ら海農産物”によるサンゴ礁保全・赤土対策について協力を依頼した。生鮮部門の関係者を紹介頂く予定。

今後は、ダイビング関係企業（PADI、雑誌社など）にもPRする予定。

(3) 日本興亜火災「思いやりプログラム」への応募

パブリックリソースセンターからの案内により、日本興亜火災「思いやりプログラム」に「ファンレイジングプロジェクト」で応募したが、残念ながら不採択となった。

(4) 沖縄県「地域協力型環境保全営農支援モデル事業」での調査

沖縄県の新規事業「地域協力型環境保全営農支援モデル事業」において、石垣市をモデル地域の一つとして、民間事業者のCRM（Cause Related Marketing）による“美ら海農産物”の販売促進の方途を調査する予定。

(5) サポーター勧誘・イベント等

新たな著名人サポーター勧誘については、人選・作戦を検討中。

また、チャリティイベントも検討中。

石西礁湖サンゴ礁基金ニュース

オニヒトデ駆除助成事業

竹富町ダイビング組合は5月24日、基金からの助成による第2回目の駆除活動を計12名のダイバーの参加によって行い、西表島北部のクロミスヘブン（お花畑）で33匹、バラス東で12匹、合計45匹のオニヒトデ駆除に成功しました。同組合からは「このポイントは組合員で話し合っただけで月に1～2回定期的に調査している所なので駆除数も落ち着いて大きさも小さくなっています」との報告を受けています。



竹富町ダイビング組合は、これまでもボランティアでオニヒトデ駆除を行っていて、昨年度は35回実施し、今年度も35回実施予定です。そのうちの一部を基金からの助成を受けて行うことにより、多くの人が参加しやすいようにし、ダイビング客へも今まで以上に活動の重要性をアピールしたいとしています。基金は、オニヒトデの大発生に迅速に対応するとともに、継続的な調査監視により重要なサンゴ群集を守るため、助成事業を継続していきます。

赤土対策としてサトウキビの株だし栽培

サンゴ礁を赤土の脅威から守るため、サトウキビ畑の赤土流出防止対策を促します。

石垣島ではサトウキビ畑から多くの赤土が流出します。サトウキビの収穫後、次の植え付けまでの間に畑の土がむきだしであることが多いのですが、ここに台風などで激しい雨が降ると土が流れ出てしまいます。サンゴに赤土が堆積するとサンゴが弱ってしまいます。



このような対策の一つとして、サトウキビの株だし栽培への転換があります。つまり、サトウキビの収穫後も株を残して、その株から新たな栽培を行う方法です。そこで、石西礁湖自然再生協議会の委員の干川明氏から申請があったプロジェクトに総額43万円を助成することを決定しました。

具体的には、取組農家への株出し管理機の貸し出しを想定し、収穫後の株の管理作業に対して10アール当たり3500円と周辺農家等への呼びかけを目的とした看板設置などに助成するものです。

住民参加の「コーラルウォッチ」

石西礁湖と周辺のサンゴは、夏期の高水温による白化などの被害が報告されていますが、一般の住民がサンゴの現状に触れたり調べたりする機会は多くありません。

そこで、石西礁湖自然再生協議会メンバーが住民に呼びかけて「コーラルウォッチプロジェクト」を実施することとし、基金が7万3千円の助成を行いました。実施方法は、主に岸から歩いて行ける範囲で、サンゴの色を「コーラル・ヘルス・コーラル・ヘルス・チャート」（色見本）と比較して記録するもので、誰でもできます。9月から11月にかけて、いずれも石垣島の、白保、真栄里、富野の海岸で計4回実施し、延75人が参加しました。このうち、白保では「しらほ子供クラブのメンバー」、真栄里では、八島小学校5年生が多数参加しています。



このプロジェクトは、地域の方々が自らコーラルウォッチを行い、生活の場である島周囲のサンゴの生息状況を把握し、石西礁湖と周辺の海の環境や自然再生について関心を高めていただくことを目指しています。また、サンゴの白化とそれからの回復を継続して調査することが重要だと考えています。



八重山でも冬は風が強く海に入ることに適さないため、来春（2011年）に継続して実施する予定です。

【問い合わせ先】 石西礁湖サンゴ礁基金運営委員会

E-mail: sangosho@strata.jp URL: <http://www.strata.jp/sangokin/>